

創意工夫で記念式典成功

大高ジャーナル

祝 大島高校 創立120周年

コロナ禍乗り越え厳粛に挙行 ライブ配信に全国から感動の声

県立大島高校の創立120周年を記念し、5月7日午後、本校体育館で記念式典が挙行された。式典には3年生と職員ら約300名が出席、1・2年生約400名は教室でリモート中継で参加した。島内外で新型コロナウイルスの感染が拡大している状況から、卒業生による講演会「大高未来塾」や先師亡友の碑前での「慰霊祭」は中止に、来賓は予定していた鹿児島県知事をはじめ約40名の参加を中止し丸田卯禮男安陸会長と橋口耕太郎PTA会長のみの参加とするなど予定より規模を縮小しての実施となった。しかし、式典の様子は動画サイト「YouTube」でライブ配信されたことで、全国の卒業生が式典や記念パフォーマンス動画を鮮明に視聴することができ、視聴した全国の関係者達から感動の声が寄せられた。



体育館の壁には紅白幕が掛けられ祝賀ムードに。座席は密集を避けて配置され、壇上にはアクリル板が設置されるなど感染症対策が徹底された。

鹿児島県立大島高等学校は1901年(明治34年)に大島農学校として創立し、大島中学校、大島高等学校第一部を経て1956年(昭和31年)に現校名となった。この120年という月日の中で、奄美群島の日本復帰運動や太平洋戦争など様々な困難や危機に立ち向かい、県内有数の伝統校となった。卒業生は2万5000人を超え、2021年度の全校生徒は714人と奄美群島で最大規模の高等学校だ。



安陸会長
丸田卯禮男



校長
黒木哲二

式典に先立ち、在校生が制作した記念パフォーマンス動画が上映された。校内外の風景や、部活動の紹介、そして最後にはドローンを使った屋上でのパフォーマンスで構成されていて、奄美の島嶼や美しい自然を織り交ぜ、模範の高等学校だ。



1・2年生は教室でリモート中継を見ながら参加。創立120周年の歴史の重みを受け止めている。



生徒代表挨拶
生徒会長
保岡海輝
(3年1組)

本日ここに、創立120周年という記念すべき年に巡り会え、大島高校生として、この栄えある式典に参加できましたことを在校生一同、心から嬉しく、誇りに思います。

120年という長い間、大島高校は、戦争や復帰運動など様々な歴史を歩んできました。先輩方は、あらゆる困難、危機に立ち向かい、大高に歴史や伝統を残してこられました。

現在、新型コロナウイルスが猛威を振るっており、大高も様々な影響を受けています。30キロ遠行や文化祭、体育祭は縮小や中止とされ、大島高校の伝統が失われつつあります。

しかし、大島高校はこれまで幾度となく危機に晒されてきました。戦時中は、空襲で校舎が燃える度上級生が消火にあたりました。また、荒れていた大島中学校を龍野定一先生が再建したというのには有名な話です。このように、大高は、いかなる危機に晒されようとも、大高の復興、発展に取り組んできました。これらと誇りを感じながら、次世代の担い手として自覚を持って課題解決をしていってほしい」と語った。

丸田卯禮男安陸会長は、正門近くに胸像がある龍野定一校長と奥田愛正校長の功績を紹介。龍野校長の「厳訓無処罰の教育」や、奥田校長の文武両道の精神について語り、2人の思いを後世に継承してほしいと語った。

在校生が創立120周年を祝い、未来への飛躍を誓う作品となった。

黒木哲二校長は式辞で「これまで幾多の変遷を経ながら、発展し続けてきたこの大島高校で高校生生活を送れることに光栄を感じています。」と語り、次世代の担い手として自覚を持って課題解決をしていってほしいと語った。

丸田卯禮男安陸会長は、正門近くに胸像がある龍野定一校長と奥田愛正校長の功績を紹介。龍野校長の「厳訓無処罰の教育」や、奥田校長の文武両道の精神について語り、2人の思いを後世に継承してほしいと語った。



PTA会長
橋口耕太郎

橋口PTA会長は、PTAが、体育祭の「大高坂タクシー」の運営や、30キロ遠行の補助、図書館ボランティア等を行っていることを紹介。その上で「生徒の文武両道の校風を受け継ぎ、何事も一生懸命に取り組む姿勢は創立当時と変わらない」と在校生を賞賛した。

【森田佳澄・島山葉生】

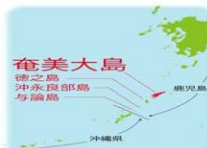
発行所
鹿児島県立大島高等学校
新聞部
奄美市名瀬安勝町7-1

- 創立120周年特集号Ⅱ
～記念式典を振り返る～
- 1面 創立120周年記念式典
 - 2面 好評パフォーマンス動画
 - 3面 島人キーパーソンに聞く
 - 4面 創立120周年記念文化祭
 - 5面 部活動特集
 - 6面 島人釣り人発見他

大高ミニギャラリー



120周年記念バッグ(6地区の体育祭応援団のシンボルカラーのデザイン)とクリアファイル



奄美大島
鹿児島県本土から南西約370km、面積1235km²、広さ日本5位(本州等4島除く)の島、亜熱帯海洋性気候、奄美群島国立公園の一部

大高坂
コロナウィルス感染拡大を受けて中止された文化祭が今年度は万全の感染症対策をとり6月に開催された。

▼創立120周年記念式典と同様、体育館から教室へのオンライン中継が行われ、動画による発表が多く行われた。直接演技を見られなくてもかきこえはあるが、新時代のイベントのモデルが構築されていく様は誇らしい気持ちにもなった。▼一方で、技術面の進歩だけでなく、生徒たちの気持ちの面でも大きな進歩が見られたと感じている。例えば、1・2年生のクラス展示については感染症予防のため急遽方針が変更され、密集を避けて決められた時間ごとに各展示会場を見回る形式になり、各教室で時間をかけて体験をする仕掛けを作ることができなくなった。しかし、生徒達はそうした急遽の条件変更にも不平を言わず、柔軟に対応していた。▼準備時間の短さに追い詰められる様子はなく、マスクをしながらも笑い合っている姿は、頼もしさすら感じさせられた。このようなピンチをチャンスに変える姿勢は、コロナ禍だからこそ育てられたものといえる。▼数々の困難を乗り越えて120周年を迎えた本校。コロナ禍も、それを乗り越えることで、生徒達が成長した学校史の1ページとなったといえる。

【川田翔太】

大高生の躍動 動画で発信 舞台を超える完成度に驚き

創立120周年記念式典パフォーマンス



ドローンで空撮された特別棟屋上での動画のフィナーレ。書道部のパフォーマンスの作品を中心に、書道部・吹奏楽部・ダンス部・新体操部・美術部の部員が手を振る。

従来の創立記念式典では体育館の舞台で行われる記念パフォーマンスは、感染症拡大防止のため、記念動画の視聴という形で行われた。動画は、体育館会場で上映され、各教室にリモート配信された他、YouTubeで全国にライブ配信された。トータルで約1時間10分あまりの記念式典等を伝える配信の中で、パフォーマンス動画は約20分を占める。吹奏楽部が奄美の美しい風景を背景に演奏する様子で始まった動画は、空手道部の形の披露、英語で大高の歴史を思索する様子、部活動生のいきいきとした様子と展開し、学校会場はもちろん全国の卒業生らと同時に魅了した。大高の歴史や、下記のQRコードからスマートフォン等で動画を視聴できる。



リモートの式典 動画で彩り

記念動画は、感染症対策のため体育館の記念式典会場職員・3年生が、1・2年生は各教室で視聴した。動画の冒頭では色とりどりの衣装を身にまとった吹奏楽部の生徒らが、奄美の海を背景に演奏する映像が流れた。生徒らは笑顔で演奏する中に「かがやかしい明日を、るり色のこの島でいつまでも歌っていよう」とメッセージを添えた。

YouTubeで手軽に視聴 新時代の式典の在り方提案

「歴史とは何か?」と問い、大高高校の校舎内の映像とともに英語で創立120年の歴史の意義を語った。その中で、鈴木侑さん(21)と辻竜生さん(21)が奄美の伝統文化である三味線と島唄を披露。奄美群島の中心校である大高高校が奄美の伝統の中にあり、この島唄を聞き故郷奄美を思い出した島外の卒業生も多かった。

記念式典終了お礼
実行委員長 丸田卯禮男
先日、5月7日(金)は、新型コロナウイルスの中、記念式典が皆様のご協力で無事終了しましたことを心から感謝申し上げます。

お礼申し上げます。参加者は、本島内の方々を計画しておりましたが、4月30日に最終判断がなされ、式典は、学校長、PTA会長、安陸会会長3名と3年生だけの参加となりました。

記念式典終了お礼
PTA会長 橋口耕太郎
式典に、PTAを代表して出席させていただきました。4月末のコロナのクラスター発生により、約1年かけて準備してきた式典が、

大幅に縮小されたのがとても残念でした。しかし、式典の冒頭、生徒と教員で作成した記念動画を、とても感動しました。式典を盛り上げようとする気持ち、各部活動の充実ぶり、そして何より一人一人の笑顔。私は、あいつの中でこの動画に、拍手を贈ろうと呼びかけ、皆が応じてくれたことがとても印象に残っています。これからも、母校大高が益々発展することを願っています。

「大高のあゆみ記念展」(仮称)が10月からWeb上にアップされる予定です。ご期待ください。

祝 大島高校 創立120周年
高額寄付 感謝状贈呈者
ありがとうございます

- | | | |
|----------------|-----------------|---------------|
| 芝慶輔(普1回) 吉見 | (普9回) 丸田卯禮男 | 荏原千加子(普30回) |
| 憲治(普2回) 白間照雄 | (普10回) 上川馨(普10) | 島郁子(普31回故人) |
| (普2回) 関球也(普3回) | 回 泰江章夫(普15回) | 虎32会(普32回) 島利 |
| 山平憲隆(普3回) | 島俊夫(普16回) 相良恭 | 文(島山建設・普35回) |
| 築愛三(普4回) 藤原 | 子(普17回) 中元秀守 | 哲(株式会社NEXT W |
| (普5回) 田中園子(普 | (普18回) 久野卓三郎 | ORKS・奄美NEXT不 |
| 6回) 平田隆義(普7回) | (普19回) 黒川雅代(普 | 動産・カギセンター奄美代 |
| 前田芳夫(普7回) 井 | 19回) 元博通(普20回) | 表取締役・普51回) 島山 |
| 上恒和(普8回) 盛勝也 | 大野弘信(普22回) 梅 | 建設 関西安陸会 関東安 |
| | 山政博(普25回) 有村修 | 陵会 鹿児島安陸会 向井 |
| | 一(普26回) 大島彰(普 | 純一(ホテルビッグマリン |
| | 26回) 伊東寛久(普26回) | 奄美代表取締役) 南海ガ |
| | 戸田敏博(普26回) 田 | ス株式会社 里見海運株式 |
| | 井一郎(田井&パートナー | 会社 普21・商9回全国同 |
| | ズ会計事務所・普30回) | 窓会 (敬称略) |



吹奏楽部の演奏の様子 (笠利町あやまる岬)



本校生による島唄披露 (本校管理棟前)



空手道部の形の披露 (本校中庭)



ダンス部による演技 (本校特別棟屋上)

この動画で登場し島唄を披露した、辻竜生さんと鈴木侑さんによると、奄美の島唄は北部の笠利唄(かさん唄)と南部の東唄(ひ

来へ」と記されていた。この動画を通して、コロナ禍で日々の活動に制約がある中でも、大高高校生は変わらぬ笑顔で邁進していることが全国に発信できた。この動画編集の中心となった野崎主泰先生(理科)は特に苦労した点として「シーンごとに音と映像を分けて撮影したことも多く、合わせるのが難しかった」と答えた。また、撮影を指導した緒方希先生(体育)は「校内のあちこちを撮影することで、卒業生の方が当時の高校生活を思い出していたらいいな」と話した。また、今の大高生が新しいことにチャレンジしながら、未来に進んでいることを伝えたい」と話した。

動画による記念パフォーマンスや、式典のライブ配信等の新たな試みは、視聴した方々に好評だった。新時代の式典の在り方の提案になったとも言えるだろう。

「伊藤寛」

しまっちゅ
島人
キーパーソン
に聞く
Vol.7奄美市教育委員会文化財課
(奄美市立奄美博物館)
学芸員ひらぎたつや
平城達哉さん(30歳)

1991年(平成3年)6月10日奄美市生まれ。小学生の頃から野球を始め、大島高校では主将を務めた。その後、「奄美大島に生息する動物のことを勉強したい」という思いから、沖縄県の琉球大学理学部海洋自然科学科生物系へ進学した。沖縄島北部を中心に、国内外の野生動物の観察・撮影に奔走し、大学3年次からはケナガネズミの行動に関する研究を行った。2016年(平成28年)4月からは、奄美市立奄美博物館に勤務。自然分野を担当している。子どもたちへの教育普及活動に力を入れており、年間30回程度、環境教育の出前授業の依頼を受ける。自然観察会や企画展なども手掛ける。また、個人ブログ「奄美大島いきもの通信」では、奄美大島に生息・生育する動植物の情報を定期的に発信。鹿児島県内各地で写真展を開催する写真家としての一面もある。

「世界遺産になってからがスタート」
身近な希少生物の魅力を感じて

今まさに活躍中のホッ
トな島人にインタビュー
する「島人キーパーソン
に聞く」。第7回は、奄
美博物館に勤務し、世界
自然遺産に登録される奄
美の自然の専門家として
様々な助言を行う他、子
ども達への環境教育でも
引っ張りだこの平城達哉
さんだ。年間120日は
山に入るという平城さん
奄美が世界自然遺産登録
されるにあたり、奄美の
自然の魅力と、これから
の奄美にとって大切なこ
とを語って下さった。

Q 奄美の自然の特徴や
魅力を教えてください
A 深い森が残されてい

て、そこに希少で固有な
生き物が沢山いるところ
が大きな特徴です。また、
そういった希少な生き物
が身近に存在しているこ
ろが魅力だと思っています。
Q 世界自然遺産登録の
勧告を受けたときの気持
ちを教えてください
A 2018年に登録延
期の勧告を受けた時は、
残念と思う反面、正直

「ほっ」としました。大
勢の人を島に受け入れる
対策や、延期勧告で指摘
されたようにノネコや外
来種の対策も不十分でし
た。ですから、そこから
国、自治体、民間がそれ
ぞれしっかり対策を行っ
てきました。今年登録勧
告を受け、「奄美の宝が
世界の宝になるんだなあ」
と嬉しく思い、世界から



評価される自然がある所
に住んでいることが誇ら
しい気持ちになりました。
Q 世界自然遺産登録に
向け具体的にどのような
ことが行われたのですか
A 例えば、環境省は主
にノネコ対策やマングレ
ーの捕獲活動を行ってき
ました。博物館では自然
の活動を地元に知っても
らうイベントを重ねてき
ました。また、民間のグ
ループも外来種駆除など



の活動をしています。
Q 世界自然遺産登録を
意識をしっかりと持て
ているだろうか。これか
らの大島高校と奄美の未
来を作っていくのは私た
ちだ。この先、世界の中
の奄美として関心を集め
るであろう郷土の未来は、
私たち担い手の動きでい
かようにも変化するのだ
ろう。より良い奄美大島へ
、より良い大島高校へ。節
目の年を迎えた今こそ、
奄美の「結いの精神」を
発揮して動き出す時だ。
〔大高ジャーナル〕
〔要田修那〕

説
世界自然遺産に輝く郷土と
創立120年の伝統校の学び誇り進め

私たちの郷土奄美大島
の太古からの年月を経て
育まれた大自然がユネス
コの世界自然遺産にいい
よ認定される。

2018年にユネスコ
の諮問機関であるIUCN
(国際自然保護連合)
の「登録延期」の勧告を
受け、島中に大きな衝撃
が走ったあの時から、奄
美大島では登録に向けて

官民を挙げて様々な取り
組みを行ってきた。例え
ば、マングースやノネコ
の奄美固有の文化にも一
層目を向けたりするなど、
2018年当時とは違う、
「世界自然遺産としての
奄美大島」という意識も
高まってきた。

私たち大島高校生も総
合的な学習の時間等を通
して、奄美の自然につい
て探究を深め、世界自然

遺産の地に学ぶ高校生と
しての意識を高めてきた。
そして、大島高校は、
今年創立120周年を迎
えた。1901年(明治
34年)大島農学校として
設立されてから、県内有
数の歴史を刻んできた。

しかし今日に至るまでそ
の歴史は平坦なものでは
ない。生徒達が荒れていた
時代、第8代校長龍野

定一校長は「厳罰無処罰」
の教育で立て直した。戦
時中の困難はもちろん、
戦後も「アメリカ世」と言
われる米軍の統治下で島
外への進学を断たれた
事態も起きた。そうし
た状況を変えるためにも
大島高校は日本復帰運
動の先頭に立った。
郷土が世界の宝と認定
され、そして自分たちの
学び舎が120年の節目
を迎えた今、私たちは大
島高校の生徒として、ま
た、ひとりの島人として



平城さんが大学時代に
研究していたケナガネズ
ミ。平城さんは「ケナガ
ネズミはきれいい好き」と
その生態を語った。
〔平城さん撮影〕

A 私は、世界自然遺産
に登録された後がスタート
だと思っています。今
後は観光客が増えること
はもちろん、想像以上の
ことが起こると思いま
す。ですから、他の地域
の事例等を参考にしなが

〔畠山葉生〕

国内最大級の亜熱帯照
葉樹林(湯湾岳展望台か
ら撮影) 〔平城さん撮影〕

ラジオでも発信
「大高ジャーナル」

大高創立120
周年と世界自然遺
産への思い語る

5月11日に、新聞部の部
員4名と顧問は、「あまみ
エフエム」(奄美市)を訪
れ、「タフフレンド」に出
演、「大高ジャーナル」第9
号創立120周年特集号」
の制作について質問を受け
た。出演した部員たちは、
創立120周年特集号に込
めた思いを語り、「全国の
大高の卒業生の思いを想像
しながら作成した」「現在
の大高生の活躍についても
伝える記事を工夫した」な
どと語った。また、創立1
20周年記念年表を作成し
て掲載した部員は、「学校
の年表が資料によって情報
が異なる、真偽の調査が大
変だった」とコメント。校
内の資料整理についての課
題についても触れた。

本校が2014年に甲子
園に出場したことについて
た、盗掘・盗採の問題は
深刻化しています。その
対策も急がれます。
Q 世界自然遺産に認定
された後の目指す奄美像
について教えてください
A 私は、世界自然遺産
に登録された後がスタート
だと思っています。今
後は観光客が増えること
はもちろん、想像以上の
ことが起こると思いま
す。ですから、他の地域
の事例等を参考にしなが

〔畠山葉生〕



収録後の記念撮影。高
校生記者たちは、ラジ
オでも母校愛、地元愛
を熱く語った。

6月11日、「創立120周年記念第72回文化祭」が行われた。テーマは「一旦(ひので)変わらないもの 変わりゆく時代的先へ」。感染症拡大防止が求められる中、体育館の演技等を取りモーター教室で鑑賞したり、展示会場を校内で分散せ、各クラスが時間差で観覧するなど万全の対策がとられ無事に実施された。様々な制約の中でも生徒達は創意工夫し、創立120周年という節目にふさわしい感動の文化祭を作りあげた。



ハウオリAスタジオ



書道部



ダンス部



振付師の岩沢剣司さんが来島され、直接指導してくださるという。最前列5人が高校生メンバー。小中学生への気遣いも欠かさない。

龍郷町の名誉町民である西郷菊次郎が今年で生誕160周年を迎え、これを記念し青少年ミュージカル事業として「菊次郎ミュージカル」が結成された。公演は8月18日、19日に龍郷町りゅうゆう館で予定されている。西郷菊次郎は1861年、西郷隆盛と愛加那の長男として生まれ、父隆盛の「敬天愛人」の精神を受け継ぎ、実践した人物。菊次郎ミュージカルでは、父との約束を果たすべく台湾へ赴き人々に善意を尽くすという菊次郎の一生が演じられる。メンバーは、本校生5名、中学生10名、小学生7名で構成されている。

稽古は、週1回の自主練。まで鹿屋市や沖永良部島の習と月1回の本稽古がある。高校生ミュージカルも手が本稽古では、演出家でこれ

は本番が迫っているということで、毎週末本稽古のようだった。当初、稽古開始は4月に予定されていたが、新型コロナウイルスの影響により6月に延期となり、予定より短い期間の中で稽古となった。また遠征や舞台視察の中止なども相次いだ。しかし、練習日数が減った分、地域や学校で自主練習をするなど、メンバー同士



で励まし合い、前向きに稽古を重ねてきたそう。

高校生メンバーによると、舞台の見どころは、プロではなく小中高生ならではの「青くて若いエネルギーッシュなところ」だという。

また奄美の場面では、方言が使われているところも必見だ。これはメンパー自身が地元の方に直接方言を教えていたとき、台本をアレンジしたという。

嘉佳奏さん(3・4)は

奈さん(3-2)は、「自分の故郷や菊次郎について深く知り、さらに興味が沸いたので、この舞台を通して西郷菊次郎を知ってもらうきっかけとしたい」と意気込みを語った。

熱い郷土愛をもつメンバーたちの西郷菊次郎ミュージカル。是非足を運んでみては怎么样う。

【森田佳澄】



校舎壁面は、各クラスが制作したモザイクアートで装飾され、コ罗纳に屈しない大高生の団結力を示した。実行委員長を務めた畑友一朗さん(3-1)は「準備はバツバツだったが、準備ゆゆる事態を想定して予防線を張っておいただため、本

香島外とすんなり通じた
 感染症対策で従来の文化祭
 の形と変わって不安があっ
 たが、文化祭の雰囲気が出
 ていて大成功だったと思う
 来年の実施につながるため
 の土台をつくれて良かった」
 と感慨深く振り返った。大
 高生の工夫で開催にも増し
 けた文化祭。例年にも増し
 て貴重な思い出となったこ
 とだろう。（隈元莉々亜）

吹奏楽部の「テキーラ」の演奏に
飛び上り応える実行委員（体育館）

文化祭は実行委員が作成したオープニング動画でスタート。この動画制作に関わった副実行委員長の寿恵

さん(3-3)は「実は」の動画は文化祭当日に完成した。大変だったが、各クラスに動画を撮りに行って実行委員のみんなも楽しんで「うだった」と語った。そで、後の舞台発表は、体育館は無観客で行い、生徒や先生は各教室からリモートで鑑

賞するという形をとった。書道部のパフォーマンスから始まり、空手道部、新体操部、ダンス部と主に部活運動単位で発表した。有志マージは、マスク着用、人と人の間隔を2メートル以上とるなどコロナ対策に苦勞する部分もあったそう。

だが、バンドの演奏等、太いに盛り上がった。また、3年生は、クラスごとに制作した映像を披露し笑いを誘った。ステージ部門の最後を飾ったのは吹奏楽部。恒例の「デキュー」の曲に合わせて、体育館も教室も場所は離れていても生徒達

は心を一つに楽しんだ。
1・2年生は校内の特別教室や体育館後方などに分散

イズ
クト君とまーじんま！

立120周年記念文化祭の

Q. 創立120周年記念文化祭の全校制作「モザイクアート」で活用した教室棟の廊下の四角い穴。1階から4階まで合計何個あるでしょう？

- ① 16,808個
② 8,678個
③ 978個

★答えは5面にあるよ



AMAMI.MUJIN代表
木村麻里さん

5月30日、奄美市名
の中央通りアーケードに
シエ本屋「AMAM
MUJIN」がオープン
した。フットオーナー
というシステムで運営
れるこの本屋に大高生10
人以上が参加し、実際
本を並べている。今回
この事業を計画し開店
せた龍郷町に在の木村
里さんに話を聞いた。

「AMAMI・MUJN」は、自分の読み終え本を他の人とシェアした人が一つの棚の経営者（ブックオーナー）となり、売本とその価格を自由に設定して販売する「シェア本屋」だ。売り上げの8割はオーナーが新しい本を買ったのに、残りの2割は店の運のために使われる。オーナーが経営しやすいよう高利で設定したそудだ。それらのブックオーナーはどのようにすれば本を買ってもらえるかを考え、自分の

あなた好みの本屋を開いてみませんか？

を装いたせる

りして自由に工夫を施

えのない一冊」に出会える
のではないかと期待が寄せ
られている。

な世界へ連れていってくれる本のおかげで苦しい時期を乗り越えたという。

奄美市名瀬の中央通りアーケードに開店した店舗。午前9時〜午後6時。不定休。

昨年度まで小学校で教鞭を取っていた木村さんは、島の子どもたちに必要な生き抜くための力とは「自ら考え、試行錯誤・創意工夫を重ね課題解決する力」だと考え、それを身につけるためには実際に経営体験をできる場が必要と考え、この事業を始めたのだという。このシェア本屋のように本を様々な手に渡らせるシステムで、買う人も「かか

オナーの年齢層は高校生が中心だが、最年少が3歳、最年長は70歳と幅広い。現在、オナーには33人（7月4日時点）で、募集中のことだ。およそ300冊の品揃えを誇るこのシェア本屋は、構想から2年の歳月を費やし、5月上旬、改装に着手した。古びた物件をお洒落にする作業は特に大変であったが、なんとか予定通りに開店。午前9時の開店後、多くの人が訪れた。高校時代は悩んで学校に十分に通えなかったという木村さんは、自分を様々



客として店を訪れた山田栄和さん（上）は、「開放的に入りやすい。自分では手に取らないような本も多く、色々な本に興味を湧いた」と話して、早速1冊を購入した。今、二人のオーナーが

開店準備には大高生もボラ

から経営し、ゆくゆくは本の出張販売や他の企業との交流にチャレンジしていくことだそうだ。大高生に対し、「何事も食わず嫌いせず、まずはやってみることが大切です。頑張って」と木村さん。奄美初のシェア本屋「AMAMI・MUJIN」を、あなたも一度訪れてみてはいかがだろう。

〔赤井洗太〕



開店準備には大高生もボランティアで手伝った。

〔赤井洸太〕

